



退魔拳師 紅美鈴

~正義のキヤイナドレス格闘おねーさん
VS 悪の触手妖怪! ~

私は紅美鈴
普段は紅魔館という所で
門番の仕事をしています

……もうお嬢様たちも
寝静まった頃ですかね

クワッ♡

そろそろ、
良いかしら

しかしそれは
世を忍ぶ仮の姿……



じゃーん!

実は私は人知れず
幻想郷を護るため戦う
正義の華人退魔師!

この私の愛する幻想郷を
崩壊せしめんと蠢く
悪の大妖怪たちと日夜
死闘を繰り広げているのです!

キラキラ

アツッ

ヒキッ

アツッ

ヒキッ
ヒキッ



このことを知っているのは私以外誰もいません

じっ

つりっ

つりっ

つりっ

余計な心配をかけるのもいけませんし、何より人知れず戦うって謎のヒーローっぽくてカッコいいですからね!

さあ来い悪の妖怪ども!

今日も私の力を見せてやるぞ!

つりっ

つりっ

つりっ





第一章

迎え撃て凶星の影

あらすじ

幻想郷を襲う悪の大妖怪

太歳星君の影の一つを

とうとう追い詰めた紅美鈴！

しかし敵は百戦錬磨の

陰謀家、ナニやら美鈴対策の

秘策があるようで……!?

あちよーっ！

最強最悪の大妖怪も
影の一つでは力を
出し切れないようだな！

ドカッ

アッ

アッ

どうしたか
この程度か
太歳星君！

それしきでは
私に傷一つ
つけられないぞ！

アッ



くっくっく
流石だな
紅美鈴

怖気づいたか
太歳星君!

アハハ

アハハ

アハハ

今すぐ田舎へ帰り
幻想郷への手出しを
やめると誓うなら
見逃してもいいぞ!

聖なる気功を使い
こなす、お前相手では
いかなわしと言えども
相性が悪いようだ

くっくっく
たわけたことを

アハハ
アハハ

わしの力が
通じにくいなら
別の力を
用意するまでよ!

なにっ!?

ここの魔法の
糸は……っ!?

ぷんぷん

ぷんぷん

ぷんぷん

ぷんぷん

ぷんぷん



どうだ、お前を
倒すために用意した
わしの部下の力は？

太歳星君様の
邪魔をする者には
死よりも苦しい
生き地獄を味わわせて
あげるわ、クスクス

アリスさん……っ！

貴様！
彼女に何をした！

予想通り、お前の気の方は
闇を払う力は絶大でも、
それ以外には大きな効果を
及ぼせないようだな

ふふふ、私は
太歳星君様に
お力を恵んで
頂いただけでよ

ちよ、ちよっと
アリスさん
どこを触って……

抵抗しようとしても
無駄よ、その魔法の糸は
神経に直接作用して
動きを封じるわ

正気に戻って
ください！



無駄だ、わしの
暗黒の力でその娘は
完全に洗脳されておる

その魔法の糸を
無理やり破壊すると
お前の友人にも
ダメージが跳ね返るぞ

くそっ、
卑怯者め！

正々堂々と
戦え！

む、むうっ



きゃあっ!!

ドキ...

!!

しっ...

プルッ...

プルッ...

プルッ...

な、何を...っ!!

うふふ、美鈴そんなに怖い顔しないで、一緒に楽しみましょ

ブルッ...

ブルッ...



うふふ、期待通り、
元気で健康的な
オッパイしてるわね

かあぁ

ど、どういうつもり
ですっ、早く服を
戻しなさい!

ばた

ぜい

ぞい

アツッ

アツッ

アツッ

ボッ

ちよっ、
ちよつと……っ!

じた

じた

アツッ

ちよ、ちよつと
今はそれ
どころじゃ……っ

アツッ

ばた

じた



それがお前じゃ！

きゃああつ！！

ムクッ
ムクッ
ムクッ

ブクッ
ブクッ
ブクッ

ブクッ
ブクッ
ブクッ

っ!?

ムクッ
ムクッ

ムクッ
ムクッ

お前の聖なる気
力を奪い取り、
影の二つなどでは
完全な姿で復活し
この世を支配するのだ！

な、何てこと……っ

くっくっく、わしもまさか
度重なる妨害をしてきたお前が
探し求めていた力の持ち主だと
知った時は驚いたぞ

キョウ
キョウ
キョウ

ブ
ブ
ブ

ふっくっ!

まさか私の力が
狙いの一つだった
なんて……っ!

正義感が裏目に
出たな、紅美鈴よ!

くっ、だが
私は負けないぞ!

ブルルッ

ブル

ブル
ブル

ブル



その威勢が
いつまで
続くかな？

んっ、くうっ!!

ふううっ♡

「気」は皮膚が薄い
最も敏感な部位から
外へと漏れやすい

探し求めた「気」の力
お前の身体から直接
たっぷり吸収させて
もらおうぞ!

や、やめ……っ

くううっ♡



うふふ、美鈴
あなた身体がピクピク
反応しちゃってるわよ、
可愛い♪

くっ、ああっ♡

か、身体が
熱く……っ！

そ、そんなに
吸っちゃ……っ

あ、あっ♡

あっ♡





あああああっ!!

ナニか………
来ちゃうぅ………!!

いけない、
力が、抜け………!!

あああっ!!

あああああっ♡

ビク

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ちゅうっ

ちゅうっ

ちゅうっ

ちゅうっ
ちゅうっ

ビク
ビク

ちゅうっ
ちゅうっ
ちゅうっ

キヤン
キヤン

ビクッ

ビクッ

ビクッ

キヤン
キヤン

ビクッ

……う、
あ、あ、あっ♡

だ、ダメだ、
もつと耐えなきや……っ！

陰蜜に混じって
お前の極上の気が
流れ出してくるぞ

でないっ……っ！！

ふはは、
何だ、もう
潮を噴いたのか

随分いやらしい
敏感な身体を
しているな？

ああっ♡



くっくっく
はっはっは
素晴らしいぞ
紅美鈴

うあっ!!

ぐいっ

アッ

アッ

アッ

んっ

アッ

アッ

アッ

アッ

力が漲る、
これほどはな

くっくっく

どうだ、自分が憎き
悪の妖怪の糧に
なつてしまった気分は

私は……
お前なんか
屈しない!

お前が私の力を
吸収して強くなると
言うのなら、私は
その強くなったお前も
また倒してみせる!

怒りか?
それとも悲しみか?
くっくくく

くっ

ブルブル

ブルブル

ビキッ

ビキッ

ムムム

ムム

ゴッ

ブル

ブルブル



うふふ、そんな
怖がらなくても
いいのよ、美鈴

そ、そこ
触っちゃ……っ

きゃああっ！

あっ♡

あ、あっ♡

だがお前の聖なる気が
わしのような暗黒妖怪
以外に効果薄いことは
もう分かつているのだ

そのために
わざわざしもべを
用意したのだからな



この者の責めを受け、なにお精神統二を維持できるかな？

ひ、うつ♡

ほら、もつとリラックスして心を開いて

ひいつ♡

そんな所……っ、触る、なあっ!!

恥ずかしい……っ!!

おまんこキツキツなのね、でも安心して……

太歳星君様がすぐほぐしてくださるわ……あら？



あらあら、
美鈴あなた
処女なのね

なっ!!?

それなら
怖がつちやうのも
仕方ないかもね、
くすくす

ぶ、侮辱する気!!

なっ、何を
いきなり……っ!!

ゆ、許さないぞっ、
あ、ああっ♥

あっ♥

ブル

ブル
ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブルブル

ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

ガッ

ガッ

ガッ
ガッ

ガッ



でも安心して、
私、指先は器用なの

あっ♡

ほら、
いっちやえ♪

あ、あっ♡

いっちやい
なさい♪

あっ、あああ
あああああっ♡

ムクッ

ムクッ

ムクッ
ムクッ
ムクッ

ムクッ

ムクッ

ムクッ

キヤン♡
キヤン♡

ムクッ
ムクッ
ムクッ
ムクッ

ムクッ

ムクッ
ムクッ
ムクッ

ムクッ
ムクッ
ムクッ



うふふ、私のテクにかかれば初めての娘もこの通り

くっ、
うう……っ♡

クリちゃん剥き出しでビンビン、マン肉も溢れ出て、すっごく切なそうね、美鈴♪

う、うるさい！

……その割に「気」の防御は緩まりそうにないわねえ

やっぱり未経験だから、余計に怖がっちゃってるのかしら

こ、こんなことで、私は屈しない……っ！

ブルブル……

ブル

ブルブル

アッ

アッ

ビキッ
ビキッ

ブルブル

ブル

ブルブル

それなら
荒療治が必要ね！

魔法の糸で快楽神経を
直接操作して、意識を
トばしてあげるわ！

ひあっ!!?

ああああっ!!!

あ、ああっ!!





うふふ、どうかしたら
快樂神經の集中した
場所に魔法の糸を
取り付けられた感想は

……ひっ、
うう……っ

くうう、
うう……っ

身じろぎどころか、
呼吸するだけでも
気持ち良くて
仕方ないでしょう？

き、気持ち良
なんか……っ

あ、うっ

あ、うっ

あ、うっ

あ、うっ

あ、うっ

あ、うっ

あ、うっ

あ、うっ

あ、うっ

あ、うっ

あ、うっ

あ、うっ

あ、うっ



あら、気持ち
良くないの？

それなら
もう少しサービス
してあげるわ、
それそれ♪

やっ、あぁっ!!

あぁぁっ!!

揺らっ!
すなぁっ!!

Mw Mw Mw

Mw Mw Mw

Mw Mw Mw

Mw Mw Mw

Mw Mw Mw

Mw Mw Mw

Mw Mw Mw

Mw Mw Mw

Mw Mw Mw

Mw Mw Mw



揺らされるのは
お嫌い？
それなら……♪

うあっ!!

ひっ!
引っ張っちゃっ!!

あっ!!

あっ
❤

ああっ
❤

うああっ!!



う、ああ……
ああ……っ♡

随分と息が
上がっているな？
得意の「気」も激しく
乱れているぞ？

そ、そんな
ことは……っ♡

くっくっく、
どうした紅美鈴

は、早く息を整えて
気を練り直さないと
このままじゃ……っ

あ……っ♡

でも……っ

ぞっ

ぞっ

ぞっ

ぞっ

MLっ

MLっ

MLっ

MLっ

MLっ

MLっ

MLっ

MLっ



ひっ!!

だだっ、
ダメ……っ!!

くっくっく
そうかそうか
ならば二つ
試してやるう

あ、あっ
❤

気を練れているなら
お前の身体にわしが
侵入することなど
できないはずだが……?

ひっ

ひっ

ひっ

ひっ

ひっ

ひっ

ひっ

ひっ

ひっ

ひっ

ひっ



言ったはず……っ、
私は屈しないと！

……くうっ！

ほう？

キィ

アッ

アッ

ブル

ブル

ブル

アッ

ブル

アッ

ブル

むしろお前の
下劣さを再確認して、
決してお前を許さないという
決意が一層強くなったわ！

身体を……っ、
穢したくらいでっ！
私の心を折れると
思ったら大間違いだ！



私は絶対に
お前を……
……あああつ♡

おつとすまん
すまん、何と
言っただかな?

あつ、あああつ♡

あああつ♡

動くつ、
なああつ♡

ああああつ♡

もう一度改めて
言っでくれないかな
くっくっく



はっはっは、
そうかそうか
ならば念入り
に乱れさせてやろう

ひゃっ!?

だ、だめえっ♡

あああっ♡

今っ、敏感に……っ♡
あああああっ♡

私の力を奪い、
私の心を砕こうとする
太歳星君との戦いは
それからが本番だった……



もうすっかり
身体がセックスの味を
覚えたみたいね♪

あはは!
ご奉仕姿も
よく似合っ
ているわよ美鈴♪

魔法の糸で操られて
身体が勝手に勃起!!

んんんうっ!

んんんうっ!



ん、これ以上……

ふっ、うっ
ふううっ♡

んんんっ♡

それがわしの
更なる力の源に
なっているのが
分かるな？

つまりお前は三重の意味で
わしのために働いてくれていると
いう訳じゃ、はっはっはっはっ！

愛液だけではないぞ、
お前が身悶え、練り損なつた
「気」の方も三重に溢れておる

これ以上感じちや……
我慢しなきや……！！

ふうううっ♡

んんんんっ♡

なんじや、また
いつたのか？
更に愛液が
溢れてきたぞ

もうわしは腹三杯
なんじやがのう
わっはっは！！

やだ美鈴、
そんなに激しく
腰を使っちゃって♪

見てるこっちが
恥ずかしく
なっちゃうわ♪

自分が動かしている
癖にいいわっ！！

んんっ♡





くっくっく、そんなに
熱烈奉仕されては、
褒美をくれてやらねば
なるまいで！

んぶっ♡

んんんんん
んんんんん
んんんんん♡

「今出されたら……っ!!!」

「頭っ、真っ白っ、
なっっちゃう……っ♡」

んんんんん♡

んんんん
んんんん

龍

ブルブル

ブルブル

うわ、乳丸出し
じゃねーか、しかも
すげえ巨乳!

うううう、
くううう……

アッアッ

アッ

アッ

……お、おいあれ
何やってるんだ?

ブル

ブルブルブル

ブル

ブル

ブルブル

ブル

うう……!!

それどころかよ、あの女マンコまで剥き出しにしてるぜ♪

痴女だぜ、痴女頭おかしいんじゃないのか？

うわ〜痴女か、あんな可愛いのに

は、恥ずかしい……!!

龍

ブルブル

ぷんぷん

くっ、くっ、くっ……!!

ぷん

ぷん

ぷん

ぷん

生まん

くっくっく、
すっかり露出狂の
変態だと思われて
いるようだぞ？

自分が無理やり
させてる癖に……っ、
白々しいっ！

こ、こんな場所で、
こんな格好してたら
当たり前でしょ……っ！

この悪辣な大妖怪は
私を辱めるためだけに
戦いの場を人里へと移した



そして自分は隠蔽の術で
姿を隠し、私にへ、変態的な
行為をさせて逆らう気力を
潰えさせようというのだ

本当に悪趣味な奴……っ！

ほう、それなら
おまえ自身は露出狂でも
変態でもないか？

当然よ！

龍

ブルブル

ブルブル

しゅっ♡

しゅっ♡

しゅっ♡

きゅっ♡
きゅっ♡

ふんふん

ブルブル



くく、そこまで言うなら
本当にそうなのか
試させてもらおうか!

やっ、やめっ
あああっ

んあっ!
あ、あっ

おおっ!?



龍

くくく、露出狂の変態でもなければ、こんな人前で無理やり犯されて、よもや感じたりはすまいな？

ひっ、うっ ♡

うぐっ ♡

動く、なあっ ♡

あぐっ ♡

と、とう、ぜん……っ ♡
ひぐっ ♡



だがその割には
蜜壺から随分愛液が
溢れてくるぞ？

色っぺえ〜

ガク
ガク

ガク
ガク

龍

ひひ、俺
勃起して
きちまったよ

んいっ
んいっ
んいっ

ひっ♡
ぐううっ♡

視線を意識しちやつて
余計に。。。。っ!!

ひらっ♡
ひらっ♡

何だか急に
悶え始めたぞ

ギョッ

ギョッ

グッ♡

グッ♡

ガク
ガク

ガク
ガク

ブ
ブ

ブ
ブ

ブ
ブ

イっちゃう……っ!!

あああっ♡

あっ♡

ふはは、膣が
きゅんきゅん
吸い付いてくるわ!

龍

ぞっ
ぞっ
ぞっ

ぞっ

ぞっ

ぞっ

ぞっ

ぞっ
ぞっ
ぞっ

ドラッ
ドラッ

ぞっ

わしの精が
そんなに欲しいなら
くれてやるう!

あああああ
あああああ♡

うわっ、
マンコから何か
出てきたぞ!?

ふああ、あ……っ♡

おいおい、アレ
精液じゃねえか？

マンコの中に
仕込んでたのかよ、
ひひひひ

どんな変態
プレイだよ、
俺もあの身体に
仕込みてく♪

はっはっは、どうやら
里人は満場一致で
お前を単なる変態だと
思ったようだぞ？

お前は正義のために
わじと戦っている
のになあ、悔しかろう

……あっ♡

龍

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

ムっ♡

こんな目に遭っても
まだわしに逆らう
つもりか？

龍

ブルブル

ぞろぞろ

こ、こんな
こと、でっ♡

ひびひび

あっ♡

…あ、
当たり、前、だ！

カク

カク

カク

わ、私の心を
挫けると思っ
ているなら
お、大間違
いだ！

カク
カク

うっ、あっ♡

ブルブル

カク
カク

私は……あああつ♡

い、今はダメっ♡

そこは
ダメえええっ♡

よろしい、ならばお前の
心が挫けるまで繰り返し
辱めでやるだけじゃ

ああああっ♡

おお！
また何か
始まったぞ！

龍

ムム、

ムム、

ムム、

アア、

アア、

ムム、

アア、

ムム、

チャン、

ビッ、

ムム、

こんな光景、
脳裏に焼き付けて
俺絶対忘れないぜ！

あつ♡

俺もだ！

恥辱と羞恥の快樂に、
いつまでその強い自我を
保つていられるか

龍

ああつ♡

楽しんでるぞ

あああああつ♡



。。。その後のことは
よく覚えていません。。。
。。。。。。

気づいたときには
屋敷の図書館で休んでいたの
恐らく太歳星君の影の撃退には
成功したのだとは思いますが。。。
。。。。。。

記憶に残っているのは
ひたすら犯され、イカされ、
中出しされまくる
羞恥の記憶だけでした。。。
。。。。。。

龍

……くっ、先日は
とんだ不覚を
とってしまった

ビキビキ

ビキ

……お、思い出すだけで
何だか変な気分にな
ってきちゃうわ……

まさか、あ、あんな
ことになるなんて……

なんだか、あ、
アソコが疼いて……

もじもじ

……

ぎゅん

もじ





……と、とにかく!

今日こそ絶対に
退治してやる!

あんな卑劣な妖怪、
野放しにしておく訳には
いかないわ!

キラッ

ゴッ

ドゥン

ドゥン

プツッ

キラッ



——第二章 人の眼をした魔物——

あらすじ

友人を盾にされ、なす術無く

ハメラれまくってしまった紅美鈴！

卑劣な作戦に一層正義の炎を

燃やす彼女だが、そんな彼女の

力を奪うため、敵は更にエツチな

罠を用意して……!?

ちっ、
ちよこまかと

だけどいつまでも
かわし続けることが
できると思ったら
大間違いだぜ！

太歳星君めっ、
今度は霧雨魔理沙を！

貴様の悪逆さを知れば
知るほど、必ず倒さねば
ならぬという気持ちが一層強くなるのよ！

くっくくく、紅美鈴よ、
あれだけの目に遭ったというのに
闘志はいささかも衰えぬようだな

当然だ！



アッ

ギッ

びっ

アッ

アッ

アッ

ふはは、素晴らしい
素晴らしい紅美鈴

その心の強さこそ
我が奉仕種族に
相応しい

その言葉を聞いて
わしもますますお前が
欲しくなつたわ!

ふん!
前回は不意を突かれて
遅れをとったが!

手下を一人や三人
使った所で私を
捕らえることは
できないぞ!



くっくくく、
ならばこれなら
どうかかな？

……こ、
ここはどこだ？

さっきまで
大通りを歩いていた
はずなのに……

おっ、あの
ねーちゃん
こないだの！

なっ!?

ドキッ

ツイ

ツイ

ツイ

ツイ

ツイ

ツイ

ツイ



こ、これは
どういう
つもりだ!?

ブルッ

く……っ!
つくづく卑劣な!

お前へ知れたこと、
お前への人質だよ

魔法使いたちならいざ知らず、
一般人がわしの暗黒の妖気を
まともに浴びればどうなるか……
お前なら分かるだろう?

あつはっは、
それはっは、
褒め言葉かな?

くねっ

しゅっ

くねっ



こ、ここは……
紅魔館？

てことはあの娘、
紅魔館の門番さんか！
どこかで見た気が
してたんだ！

へへ、どこの誰か
分かると何だか余計に
興奮してきたぜ

もじ

ドキ
ドキ
ドキ

ドキ
ドキ

もつと脛に
焼き付けときゃ
良かったな！

アッ！

俺、今必死で
あの服の中身
思い出そうと
してる所だ！

の、のんきなこと
言っちゃって……っ！

もじ

もじ

もじ

アッ！



ど、どうすれば
……あつ!?

ビクッ

し、しまった!

チュルッ

グ
グ
グ

ひひひ
捕まえたぞ

チュルッ

グ
グ
グ

このおまじを……

ビクッ

ビクッ

また……っ!!

うっっ♡
くうっ♡

ううっ♡
ブヂュ

うわっ、何だ
あの化け物!?

ぞくっ

門番の娘が襲われてる、
助けないと……!!?
か、身体が動かねえ!?

ブヂュ
ブヂュ
うっ♡

ひびきに
見られてるのに……っ
ぞくっ



また……っ!!

ふっ♡
ぐううっ♡

グ
グ
グ

んんんっ♡

いっ

いっ

グ
グ
グ

ぞっ

ぞっ

ぞっ

くくく、周りの視線が
そんなに気になるか?

随分と反応が
敏感だぞ?

うううっ♡

しっ

しっ

グ
グ
グ

グ
グ
グ





ブルブルッ

ブルッ

ち、ちがあ……っ、
それは……っ♡

あっ♡
うああ……っ♡

はあ

はあ

あっ♡

ああっ♡

……な、何だか
様子がおかしいぞ

見る紅美鈴
本気がきた
溢れできた

ごくり、もう少し
様子をじっくり
眺めてからで良い
んじゃないか……

ぐわ、
ぐわ、

ぐわ
ぐわ

ぐわ
ぐわ

ぐわ、

ブル
ブル

ほれほれ、自分の
身体の感覚に正直に
なるが良い!

だ、ダメっ♡

あああっ♡

……そ、そう
言えばよ、あの娘、
名前何ていうんだ?

……確か
美鈴ちゃん
だったかな

美鈴ちゃんから、
見た目どおり可愛い
名前だな

美鈴ちゃんの
悶えてる表情
たまんねえ

いやああ……っ!!

恥ずかじつすぎる……っ!!





ドキッ

あっ!?

たっっ

がば

どきどき

おおお!

すげー張りのある
重そうなオッパイ!

何だかよく分からんが
美鈴ちゃんのあの乳、
今度こそ目に
焼き付けてやるぜ!

くっくっく、
折角ギヤラリーが
いるのじやから、
もつと見せ付けて
やるうてはないか

やつ、やああっ!!

ぐいっ
いっ

んっ

ぷんっ

ぷんっ



うわ、
美鈴ちゃん
潮噴いた

あああああ
あああああ
あ

熱線マツサージ
サービス始めても
いいんじゃないかと
思ってるんだけど、
美鈴はどう思う？

腰カクカク
振っちゃって
可愛い♪

そらそら、
熱くしたり緩めたり
思いのままだ、
凄いだろ？

ふあっ、あっ
あっ、あっ
あ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

がが
がが

がが
がが
ちゅっ
ちゅっ

かか
かか

かか

ムゅっ
ムゅっ

ムゅっ
ムゅっ

ムゅっ
ムゅっ

かか
かか

かか



何だつて？
今度はマンコも
熱線マッサージ
して欲しいのか？

いやあああつ
そつ、そんなこと
言つて……つ
ああつ

あああああつ

美鈴ちゃん
すげー空腰
打ってる

気持ち良いんだね
美鈴ちゃん

顔から火が出そう……

光線の熱さと……
恥ずかしさで……

やあああああ
あああつ

ビュルッ
ガッガッ

ガッガッ

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

……ひつ、ぐつ
うぐつ

あゝあ可哀想に、
クリトリスが
腫れてピンピンに
なっちゃってるぜ

大人しく服従すれば
こんな目に遭わなくて
すむのになく？

うひょおお
美鈴ちゃん
マンコ丸見え！

尻の穴の皺まで
くっきり見え
ちやってるぜ！

あんな可愛い娘の
股間をこんな間近で
見られるなんて、
生きてて良かった♪

あつ、
くううつ

み、見る
なあ……っ！！





そつ、そんな
訳……っ、あつ♡

さ、触るっ、
なあっ♡

あつ、あつ♡

きゃん♡

じゅん♡

ぎゅん♡

それとも何か、
お前は黽られるのが
好きなマゾなのか？

へ、いつまでも
強情なお前が
悪いんだぜ？

あつ♡

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん



はは、そんなこと
言いながらクリは
弄られるたび
硬くなってる

あっ♡

やめっ♡

身体の方は
正直だね♪

ああっ♡

あ、あっ♡

M

M

G
G

M

G
G

M

M

M

M

M

M

う、あ、
あああ……っ♡

エッチなオマンコ
してるんだね
美鈴ちゃん……

おいおい、
クリが更に
膨らんじやったぞ

こんなでかいの
ぶらさげてて
恥ずかしく
ないのかよ？

すげえ、
あんな濃い本気汁
溢れさせて……

あ、あつ、
み、見ないでえ……

やああ……っ♡



くっく、あやつらには
証人として見届けて
もらおうじゃないか

お前がわしの
愛玩具だと
いうことをな

あっ

うっ、あっ

い、入り口
擦っちゃ……っ
あっ

ち、違う、
私は……っ

お前を倒す
ために……っ!!





ふはは
これは良い具合だ

んああっ♡

褒美に陰核を
わし自ら
揉んでやろう

あゝっ♡

あんな怪物に犯されて
美鈴ちゃん、滅茶苦茶
腰振ってるぜ

ひよ、ひよっとして
美鈴ちゃんも
楽しんでやってるん
じゃないの、ひひひ

そんな訳……っ!!

ああああっ♡

ブユ
ブユ
ブユ
ブユ

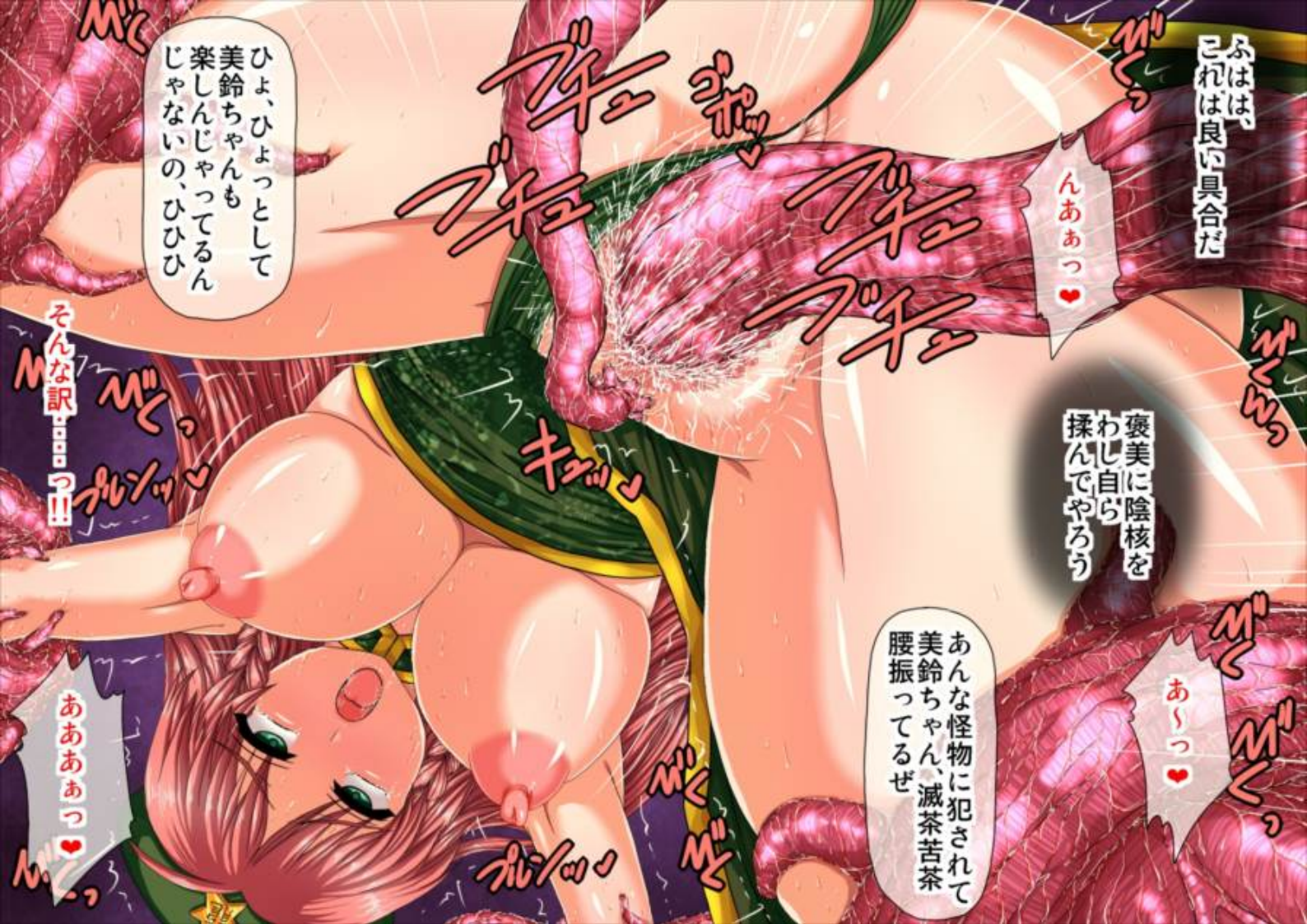
キツッ

カシッ

ムク
ムク

ムク
ムク

ムク
ムク
ムク



今までずっと正体を隠して
幻想郷を護るため
影ながら戦っていたのに、
まさかこんな形で
私のことがバレるなんて……

その日以来、
私が門番の仕事をしていると
いやらしい目つきをした
男の人たちが大挙して
押し寄せるようになってしまい……

しかも遠巻きに何か話しながら、
私の身体を隅々まで舐め回すように
見つめてきて……凄く恥ずかしい……

……太歳星君め、絶対
許さないんだから……っ！

龍

……もうっ、
あの人たち
また来てる……

ドキ
ドキ

ドキ
ドキ

うう、視線が
まとわりついて……

ふんふん

私は見世物じゃ
ないってのに……

ぷんぷん

もじ
もじ

恥ずかしい
なあ……

もじ

もじ



……それにしても

?

こないだも
どうやって私、
部屋に帰ったのかしら

アハハハ

フツツ

最近戦いの後の
記憶が曖昧だわ

無事に帰ってるって
ことは太歳星君の
撃退には成功してるって
ことだと思っただけど

アハハハ

フツツ

うーん……

……あんまり
考えても
仕方ないか

今度の戦いに備えて
しっかり身体を休めて
力を蓄えなくちゃ

私は頭を動かすより
身体を動かすほうが
得意なんだ

……ふーっ……

……すやすや

龍



第三章 退魔も恐れぬ霊夢

あらずじ

衆人環視の下執拗に嬲られ
多くの人に情けないイキ顔や
豊満な乳房、秘め穴や菊門まで
じつくり見られてしまった紅美鈴！
羞恥心をこらえて尚も戦う彼女だが、
敵の計画は最終段階に迫っていて…
!?

くっくくそう！
離せっ！

くっくく

くっく

くっくくく
札を言うぞ紅美鈴

お前の上質な「気」の
力を吸収したおかげで
わしもここまで力を
取り戻すことができた

いた

ばた

くっく

くっく

いた

いた

ばた

完全復活まで
あと少しじや、もう諦めて
わしの軍門に下るが良い

わっ、私は
希望が1%でも
残っている限り
諦めないっ！



ふん、
強情な奴め

まあそれも良い、しもべよ、
この娘の闘志を完膚無き
までに砕いてやるのだ

ううっ!!

そしてわしの
贄と捧げよ

分かったわ

げ、幻想郷の
巫女までがとうとう
太歳星君の毒牙に……っ!!

やっぱり、私が
幻想郷の最後の
砦なのね……っ!!



私がくじける
訳には……あっ

ふふっ、おまんこ
ヒクヒクしてる

い、息が……っ
あ、アソコに
かかって……っ

ふあっ

我慢は身体に
良くないわよ？

そ、そんな所っ、
まじまじ見るな、
ああ……っ



でも安心して、
私は封印を解く
エキスパートなの

あ、あっ♡

ひあっ♡

手つき……っ♡
凄……っ♡

あなたのこの「気」の
防御も完全に解いて、
太歳星君様の快樂の
虜にしてあげる

やっ、
触っちや……っ♡
あっ♡

あっ♡



ふふっ、指はイヤ？

アタマ

じゃあこの退魔針を使うわね

ひっ!?

うふふ、コレは凄いわよ

しちゃう

ブルブル

これで弱い所を刺されると、気持ち良すぎてそれだけで昇天しちゃう娘もいるわ

い、嫌……っ、やめて……っ!

でもあんまりジタバタしない方が良いわよ、間違っちゃうから……

ブルブル

ブルブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル





ふふ、動いちや
ダメだってば、
それぞれ♪

それ♪

ちし
ちし
きん
きん

ちし
ちし
ムッ

ひあつ♡
ああーっ♡

あああつ♡

あああゝっ♡

ムッ

ムッ

ムッ

ムッ

ムッ



んあああっ♡

ああっ♡

あゝっ♡

うふふ、それにしても
乱れすぎじゃない？

随分エッチな身体
してるのね、それ♪

あああっ♡

ガッ ガッ

ガッ
ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

んんんっ♡

んんんっ♡
んんんっ♡

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

……いつ、いくつ
いつちやうつ♡♡

耐えられない……♡♡

熱いつ、塊みたいなのが
背すじをせり上がって……!!!

いつぐうううう♡♡

ぶうううううう♡♡



ブルブル

ブル

ブルブル

ブムブム

カクカク

カクカク

ブル

ブル

ブルブル

ブルブル



せつかくの
可愛い顔が
無しの台

あゝ
あゝ

あゝ
あゝ

あゝ
あゝ

あはは、噴き出した
本気汁が顔にまで
かかっちゃってるわよ

は、反撃しなげや
なの

あゝ
あゝ

あゝ
あゝ

身体が、頭が痺れて
まともにもっ……っ♡

くくく、どうした
「気」の防御がすっかり
消えている……ぞ！

あああっ♡

それでは今日も
じつくり味わわせて
もらおうとしよう！

ふっ♡
深……っ♡

あああああ
あああああ♡





もう身体の方は
わしに屈服したがって
いるのではないかん？

あ、あつ♡

あ、あつ♡

あ、あつ♡

くく、随分と
艶っぽい声を
出すようになった
んじゃないか

そ、そんな
ことお……っ
あ、あつ♡

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ



お、お前には
屈しない……っ、
くううっ

ふっ
わ、私は……っ
くううっ

どんなに……っ、
身体を穢され
ようとも……っ、
ふっ、うっ

こ、心までは
絶対に……っ
ふっ

ブ
チュ

ブ
チュ

ブ
チュ

ブ
チュ

ブ
チュ

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル



その強がりも、
これからは
続かなかしら？

そ、それはどう
いう……あああっ ♡

んああっ!!
ああっ ♡

うふふ、美鈴
あなたがどうしても
逆らう意思を捨てないなら、
私が強制的に逆らえない
身体にしてあげるわ

あっ ♡

グッ
ホッ

ビクビク

ビクビク

ビクビク

ビク

ビク

ズググ

ズググ



さ、逆らえない、ひっ
か、身体にするって、ど、
どういう...っ、はひっ

ひっ

あはは、イくか
喋るかどっちかに
してくれない？

あらやだ美鈴、
そんなに乳首勃起
させちゃって♪

はっ
はひっ

はっ

ブル
ブル

ブル
ブル

ジキッ

ジキッ

ジキッ

ギョッ

ギョッ

グニャッ

ガク

ガク

アッ

ガク
ガク



くっく、それは
じぎに分かる

そんなっ!!
激しっ♥

あああっ♥

わしとお前
お互いにとっ
利益になる
ことじやよ

あっ!!
ああっ♥

動くっ、
なあっ♥

あっ♥

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



あっ
あっ
あっ

ビク

あっ
あっ

ビク
ビク

くぐぐ、上はともかく
下の回は素直だな
熱烈にしゃぶりついで
奉仕してきおるわ!

あっ
あっ

また、奥に熱下のがあ……

ビク

ビク

ビク
ビク

あっ



これなら作り変えは
簡単にいきそうね♪

っ、作り変えて、
どういう……っ♡

あっ♡

うああ、
あ……っ♡

ま、また、
中に……っ♡

あはは、精液飲み込んで
美味しそうにおまんこ
ひくひく震えてるわよ

ああ……っ♡

ムム

ムム

ムム

ムム

ジキーン

ジキーン

ムム

ゴッ

ムム

ムム

ムム

ムム



ムッ

またいく……っ ♡

ビキッ
ビキッ

ムッ
ムッ

ふふ、
こういう
ことよ！

ムッ

おほおおおっ ♡

ズ
ズ
ズ

ムッ
ムッ

こんっ、なっ ♡

んほおおっ ♡



そのために神経の集中した
トコロを使わせてもらうけど、
あんまり気持ち良くなっちゃ
ダメよ!

しよ、しよんなっ
ことおっ♡

おおおっ♡

太歳星君様の暗黒妖気と
退魔針の力であなたの身体
の気の流れを狂わせるわ

おおっ♡
おおっ♡

おほっ♡

ガッガッ

ガッガッ

ガッ

ビキッ
ビキッ

ガッ

ガッ

ガッ

グッ
グッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ
ガッ



それを私の得意の
封印開閉術で
ちよつと加速させて
あげようってわけよ

あ、ああつ♡

今までも太歳星君様に
精を注がれ、イカされる度に
気の制御が困難になるのは
あなたも感じていたでしょう？

あああああつ♡

いくつ♡♡
いくつ♡♡

あああつ♡

あゝあゝあゝ

ムムムム

ムムム

ムムム

ムムム

ムムム

ムムム

ムムム

ムムム

ムムム



今までお前を泳がせていたのこの術の準備のためだったのだ

くくくもう拘束も必要あるまい

……う、あ、あ、あ……っ♡

む、胸とアソコからって、気持ちいい波動がとめどなく広がって♡

あ……っ♡

ん

んん

ん

んんん

びん

びん

んんん

ん

んん

思われては……っ!!?

んおっ
おほおっ

一体何……っ!!?

んおおおおっ

「氣」を練ろうとした瞬間、物凄い快感が……っ

うふふ、確かに封印自体は大した術じゃないわ

だって、あなたの「氣」の脈を、快樂神経に繋げてあげただけだもの♪

おおおっ





ふふ、随分
沢山の気を練ろうと
したみたいね

おっ♡
おほっ♡

強い「気」を使おうと
すればするほど
快感も強くなるから
今度から注意した
ほうが良いわよ♪

おほおっ♡

おおっ♡

まあオナニー
したって言うなら
止めないけど♪

んおおおおっ♡

油断しきつたにつつき敵が
すぐ目の前にいるのに♡

悔し〜♡♡♡♡♡

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん



気持ち良すぎて
何も出来ないなんて……っ♡

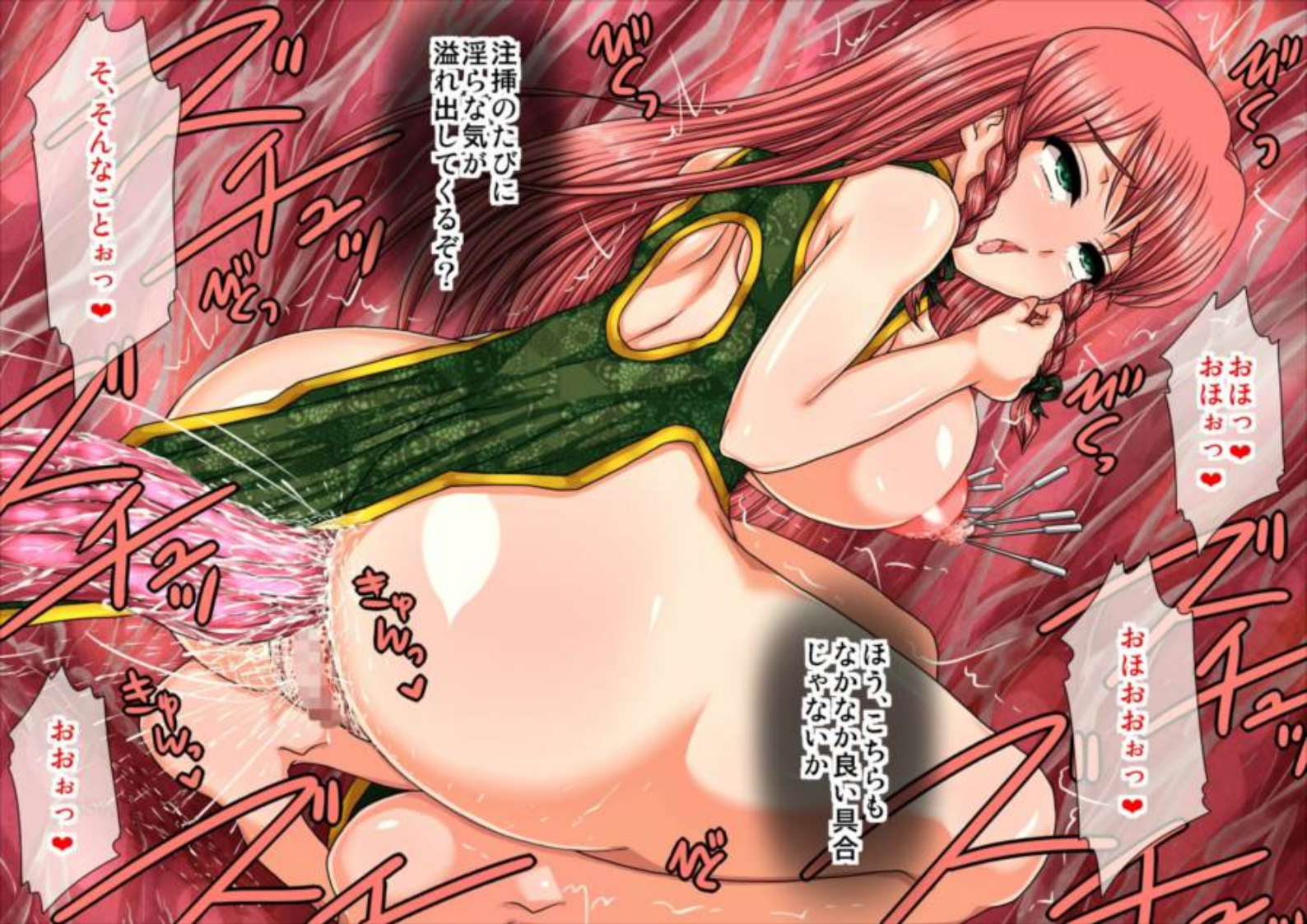
あっ♡

しかしこの術をかけて
いる間は粘膜から力を
直接吸収できないのが
少々不便だな……おや

都合の良い穴が
ここにあるではないか

そ、そんな……っ♡

やめ……っ♡



注挿のたびに
淫らかな気が
溢れ出してくるぞう

そ、そんなことおっ♡

おほっ♡
おほおっ♡
おほおっ♡

おほおおっ♡

ほう、こちらも
なかなか良い具合
じゃないか

おほおっ♡

きゃん♡

きゃん♡

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ



巨つちにも褒美を
くれてやろう!!

だ、ダメっ、
出しちゃ...っ ♡

くくく、これなら
術の完成までも十分
楽しめそうじゃな!!

おほおおおおおっ ♡

んおおっ ♡

ガッガッ

ガッ

ガッガッ

んおっ ♡

んおっ ♡



その時までは
尻で可愛がつてやるから
安心するが良い

あぁあ……♡

……あ、あぁ……♡

わっ……お尻で……

くっくっく、
この術が完成すると
その札など無くとも
お前の力は全てわしに
流れ込むようになる

やぁあ……♡

その日はその後……
延々とお尻でイカされて……

今まで撃退に成功したと
思っていたのが、この
忌々しい術をかけるための
罠だったなんて……

太歳星君の奴つたら
もうすっかり
勝った気でいるみたい……

私の力が全て奪われてしまうと
この悪の大妖怪から幻想郷を
護る希望が完全に潰えてしまう……

何とか「打開の道」を
探らなきゃ……でも、
一体どうやって……

……く、力が
入らない……、
というか……

この疼きが、
太歳星君の企みの
せいだったなんて……

力を入れると
あ、アソコが疼いて
集中が乱れちゃう……っ

ブルブル

ブルブル
ブルブル
ブルブル

ブルブル

ブルブル

ブルブル

ブルブル

キーン
キーン

もい

もい

もい



あの後も、何度か
太歳星君の襲撃を受け、
あの忌々しい術と、お、お尻の
穴の陵辱をされてしまつていて……

ブルッ
ブルッ

じゅ

ブルッ

この分じや、もう
戦えるのは次が
最後のチャンスだわ

ぎゅん

ぎゅん

きゃん

幻想郷を奴の
魔の手から救うには、
刺し違えてでも
私が倒すしかない……っ！

ブルッ

……今では札が貼られていなくとも、
「気」をとおうとすると股間から
全身に強烈な快感が走って
どうしようもなくなる身体に……

幻想郷は既に大半が
太歳星君の支配下に
入つてしまつており、
奴に對抗できるのは
私しかいない……っ！

キヤッ

もう少しだけ
もつてくださいよ、
私の身体……っ！

んんん

んんん

キッ

太歳星君め、私は
お前の企みなんかに
絶対負けたりしない！

んんん

そう覚悟を決め、
私は最後の戦いへと
赴いた……っ！

んんん





ひやめええっ♡

いくっ♡
いくいく
いっちやうっ♡

あっ♡あっ♡
あっ、あーっ♡

い、いくううっ♡

あああああああっ♡

ぞっ♡
ぞっ♡

ぞっ♡

ぞっ♡

ぞっ♡

がっ

がっ

がっ

がっ♡
がっ♡

がっ

がっ♡
がっ♡
がっ♡

がっ

がっ



——
第四章

太歳星君の災禍——

まだまだ心は折れないか
紅美鈴よ

秘め壺の方はもう
限界だと言っている
ようじゃぞ？

くっ、うう……っ!!

言っで、
いるはず……っ!

何度犯され
ようとも……っ、
私はお前なんか
屈しない……っ!!

ズル

キッ

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ふんっついでっつき
わしの魔羅に
情けない顔して
よがっつておつた女の
発言とは思えんな？

だ、ダメそこ
触っちゃ……っ
あっ♡

ふあっ♡

さ、触られただけで
腰が蕩けそう……っ♡

ああっ♡



もう二度わしの
肉棒が欲しいのと
吸い付いてきよるわ

ふっ♡
ふうっ♡
ふっ♡

ぞく♡

ふい♡

ふい♡

もじ

もじ

そっ、そんな
こと……っ♡

しゅ

しゅくね

ふはは、相変わらず
下の回は正直じゃな

ないい……っ♡

クチュ

クチュ

もじ

ふっ♡

もじ
もじ

ふうっ♡

クチュ

もじ

クチュ

その強がりも
いつまで
もつかのう？

んああっ♡

そろそろ十回目の
挿入じや！

あっ♡

だ、ダメなのに……っ
嫌なのに……っ♡

ああああっ♡

身体が
悦んじやっつて
るう……♡



なっ、ああ……っ♡

こ、これは……っ!?

くっくっく、
ついにわしの計画が
成就したようじゃな

その母乳はお前の身体が
もはや戦術を失い
わしのモノになった証よ

……ふっ、
ふざけるなっ!
そんな……っ♡



嘘だと思おうなら
抵抗してみても
良いんじゃないやぞ？

悔しい……
完全に目下されてる
の……♡

い、今っ♡
イった所
だからあっ♡

んああっ♡

うっ♡
動く、なあっ♡

ああああっ♡

ああああっ♡





どうしてこんなに
気持ちイイの……っ♡

あああっ♡
イクっ♡
またイクっ♡

そもそも感じて
よがっつてしまっつていては
抵抗する気力も湧かない
かな、はっはっは

あああああああ
あああああああっ♡

きゅん♡

きゅん♡

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

くくく、
そうだとつ
良い事を
教えてやるう

わしの奉仕種族の
役割は栄養補給の他に
もう一つあってな

わしの眷属を
産むことが
それじゃ

ひっ!!

この身体なら
元気な子を沢山
産めそうじゃな

な……
何……っ!!?

そ、それって……っ!!

いつ、嫌……っ!!!





ははは、そんなに尻を振つて誘つておるのか？

あっ♡
あああ♡
あ♡

あああああ♡

そんなにわしの子を産みたいか
ははは！

ちっ、違っ♡

グッ♡



何じや、子を産めると
聞いた途端子宮の反応が
格段に良くなったぞ？

あぁあぁあぁっ♡

あっ♡

に、逃げなさいや、
なの♡

子宮回まで熱烈に
魔羅へと吸い付いて
きおるわ、この淫乱娘め

そ、そんな
こと……っ♡

あぁあぁあぁっ♡

あぁっ♡



こつも熱心に
奉仕されるとわしも
褒美をやりたくなるな?

ほれほれ、どうじゃ
子宮口に密着したまま
グリグリと奥を
ほじられる気持ちは?

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ

今までと全然違う……っ
頭がバーになっちゃう……っ

き、気持ち良すぎて
何も考えられない……っ

おっ
おっ

おっ
おっ

おっ
おっ

ブツ
ブツ

ブツ
ブツ

ブツ
ブツ

おっ
おっ

おっ
おっ

おっ
おっ

おっ
おっ



……あつ♡
ああああ……っ♡

ああああっ♡

くっくっく、
今更慌ても
もう手遅れよ

力を吸うために犯す必要は
もう無いが……今度は
眷属を増やすためにお前の
穴には働いてもらうでしょう

し、子宮の中は……
太歳星君の精が……

こんな奴の子供を
産むなんて……っ

嫌ああ……っ♡

どれ、孕むまで遊んでやるとしよう

あっ♡

み、認めないぞっ！
私はまだ……っ、
戦えるっ！

あああっ♡

ははは、回りだけは
いつまで経っても
威勢が良いな

もう膝から上は
自由に動かせるぞ？

それなら
体勢を整え反撃して
みせたらどうだ

あっ♡

そ、
それは……っ、
あっ♡

ああっ♡



くくく、もう
降参か紅美鈴

我が野望最後の障害である
お前がここで倒れると
幻想郷はわしの支配下
におかれてしまうぞ

私の……っ、
愛する幻想郷を
護るために……っ!!!

こんな、太歳星君の
生み出す魔性の快楽に
屈する訳には……っ!!!

ふっ、ぐっ
ふっ、ぐっ

ううっ
ううっ

……そ、そうだ
私が勝たないと
幻想郷が……っ!!!

ふうっ
ふうっ

私は……っ、
負け……っ!!!





簡単に、霧散していく……っ♡

くくく可愛く声で鳴きおつてもう二発くれでやろうー

私の中が……っ♡

染め上げられて……っ♡

おおおっ♡

んほおおおっ♡

おおおっ♡



これでお前の「気」が
わしの栄養となる
だけでなく
お前の肉体はわしの
眷属の母体となった

くっくくく
勝負あったな
紅美鈴よ

お、お腹が……
内側から掘けられて……

んおっ
おっ

おごおおおっ

んおっ
そ、そんな……



……最後の防波堤であつた
私が無残にも敗北したこと
で幻想郷は完全に太歳星君の
魔の手に落ちてしまった……

住民は人妖問わず支配され、
洗脳され、太歳星君のしもべ
へと変えられ……

そんな幻想郷を見せ付けられながらも
私自身、太歳星君の力の源として、
そして眷属を産み落とす母体として
犯され続けて……

私は太歳星君の計り知れない
邪悪さに対する己の無力さに
打ちひしがされたのだ……



—その後のお話—

龍

はちっ

……はっ!?

私は……さつきまで、
太歳星君に、
お、犯されて……、
いたはず……

こころは……
紅魔館?

どうして……

もじっ



龍

……あつ!?

ムッ

物凄い快感が、
ぶり返して……っ♡

ムッ
ムッ

ムッ
ムッ

ああっ♡

ムッ

ブル
ブル

ああああっ♡

み、身じろぎ
しただけで……っ♡

ブル

ブル
ブル

きゃんっ♡

ゴッ

ブル

か、身体が、
焼き付けそうなの
くらい、熱い……っ♡

う、あっ♡
あっ♡

ブル

ブルブル

ぎゅっ

ピキッ

ぎゅっ

ぎゅっ

ゴポッ

ゴポッ

敏感になりすぎて、
衣擦れするだけで、
イきそう……っ!!

ピキッ
ピキッ

あっ♡

ブルブル



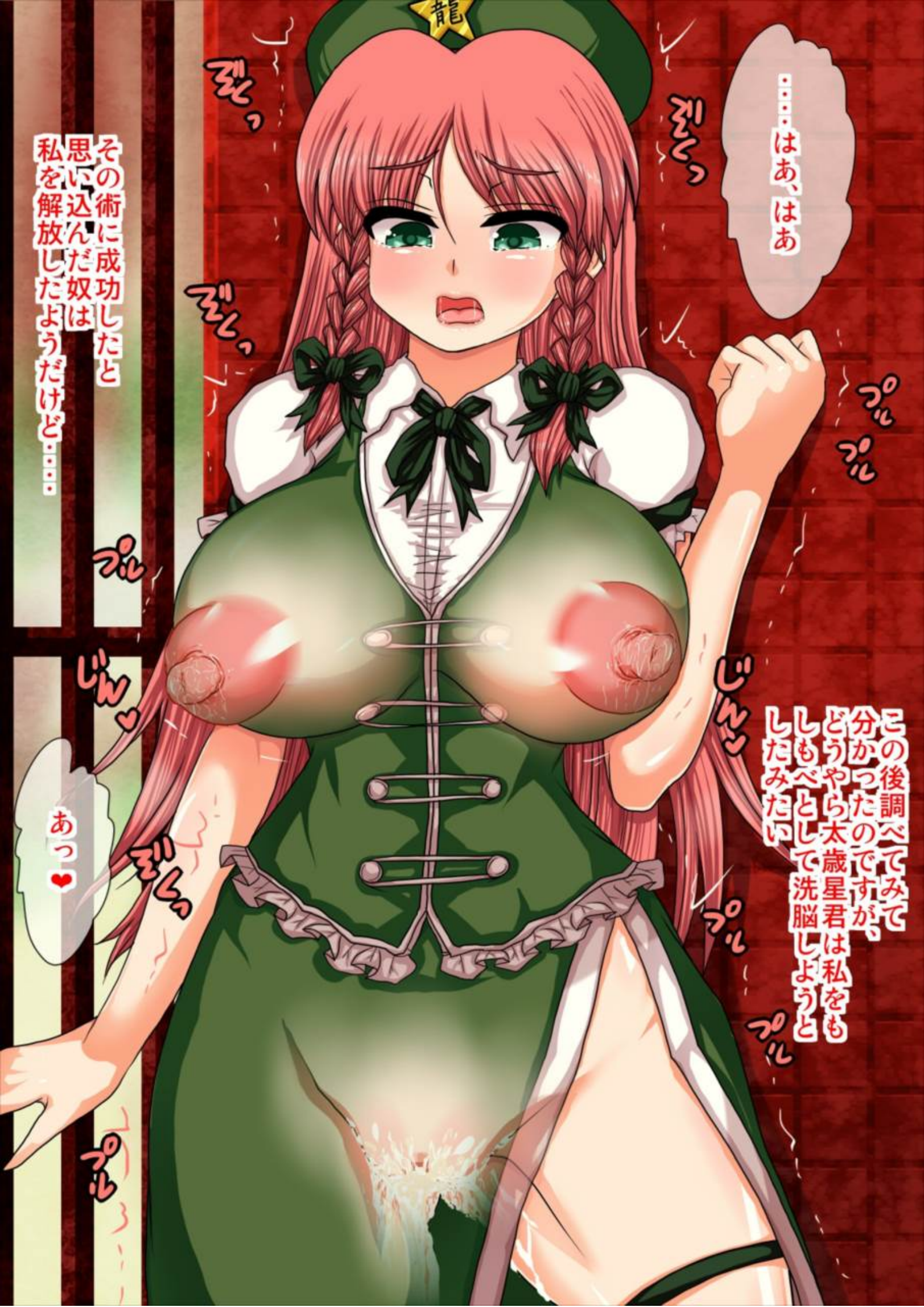
龍

……はあ、はあ

その術に成功したと
思い込んだ奴は
私を解放したようだけど……

この後調べてみて
分かっただけですが
どうやら太歳君は私をも
しもべとして洗脳しようと
したみたい

あっ♡



龍

私を自由にしたこと、
絶対に後悔、さ、
させて……っ、ひんっ ♡

私の中の正義の血が、
敵の術を跳ね除けた！

さ、させてっ ♡
ひっ、んひっ ♡

や、やるん
だからあ……っ ♡

んいっ、っ ♡

これは千載一遇のチャンス、
幻想郷を奴の魔の手から
取り戻せるのは私しかいない！

ムッ、っ ♡

ムッ、っ ♡

ムッ、っ ♡

アッ、っ ♡

ブル、ブル ♡

ブル ♡

ブル ♡

ブル、っ ♡

ブル、ブル ♡





ふはは、どうやって
わしの支配から
逃れたか知らぬが、
再び向かってくるとは
愚かな娘よ

やっ♡
あああっ♡

ダメえっ♡
あああっ♡

深…っ、いいっ♡
ああああっ♡

三度と逆らう気が
おきないよう、
徹底的に辱めて
心を折つてくれるわ！

あぁっ♡♡♡

こゝんな
はずじゃあ……♡

あっ♡





幻想郷のために
私が耐えなげや
いけないのに
あーっ

あーっ
あーっ
あーっ

あ、あーっ
あ、あーっ

た、耐えなげやあーっ

あーっ



どうしてこんなには
気持ちいいの……♡

いぐううううっ♡

んっ
んっ

んっ
んっ

んっ♡

んっ♡

いくっ♡
いくっ、いくっ♡

ひっ♡
ぐううううっ♡

んっ
んっ



この期に及んで
太歳星君様に逆らうなんて
貴女も強情な娘ねえ

あゝっ♡

わっ♡
私は……っ♡

あゝっ♡
あああゝっ♡

ほら、こんなに
貴女のおまんこは
悦んでるのに♪

あゝっ♡

ざわさわ

クワッ



あ、あっ♡
あああっ♡

あああっ♡♡♡

わ、凄い♪
おまんこきゅんきゅん
反応してるわ

中出しされると
そういう表情
するのね、美鈴♪

うふふ、すっごい
可愛い顔してる♪

こんなの、
恥ずかしいすぎる……っ!!!

っ♡



お、おおっ ♡

大した体力ね、
私じゃあんなに
もたないわ、くすくす

凄いわねえ、
もう丸一日セックス
してるわよ、あの娘

恥ずかしい、
気持ちいいっ ♡

んほおおっ
おっ ♡

おほおおっ ♡

体力も限界で、
恥ずかしさと気持ち良さが
混ざり合っつて、
訳が分からなく……っ ♡



やっぱ鍛えてると
アソコの体力も
凄いんだな♪

わ、また
イっちゃった

まだいくううっ♡♡

美鈴ったら
気持ち良さそうな
いき顔するわねえ

んおおおっ♡

い、いくっ♡
いくいくっ♡

~~~~っ♡♡♡

カッ

カッ  
カッ

カッ  
カッ

カッ

ビュルッ♡

ムッ

ムッ

ムッ

レレレ♡

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

龍

う、あ♡  
くあ……っ♡

大きなオツパイから  
母乳までしたたらせて、  
本当にいやらしい身体  
しているわね♪

うふふ、  
その格好の方が  
お似合いよ、美鈴

太歳星君様の  
精がおまんこに  
収まりきららずに  
溢れちゃってる♪

あ……っ♡

力が入らない……っ♡  
このままじゃまた……っ!!



そうだ、続きは  
人里でやりましょ！

ブルッ

観客がいた方が  
きつと美鈴も  
盛り上がるわ♪

えっ、ちよ、  
ちよつと……っ!!

ブル  
ブル

良い考えね、  
早速移動しましょう

ブルッ

い、嫌ああ……っ!!

ブルッ

ブルッ



おお、今日の  
生贄は紅魔館の  
門番の娘か

う、くっ！  
ああっ♡

い、嫌……っ♡  
見ないで……っ！！

あっ♡

そんな……っ！！  
ブル

眼福眼福、女の子たちには  
悪いけど、悪の暮らしも  
案外悪くないぜ、ひひ

ふふふ、この娘は  
太歳星君様の  
お気に入りなの

今回は愛し合う姿を  
下々の者に見せたいと  
おっしゃられるので  
連れてきたわ♪

皆、太歳星君に  
操られて……っ！！



へえ、  
そうなんだ  
楽しみだなあ♪

な、何をふざけた  
ことを……っ!?!  
おっ♡

おおおっ♡

んおおっ♡

うふふ、それじゃ  
心行くまで恥ずかしい姿を  
見てもらいましょうね、美鈴♪

そ、そこっ♡  
弄っちゃ……っ♡

ビク  
ビク

ビク  
ビク

ガ

ガ  
ガ

ガ

カ

カ

カ

ガ  
ガ

ニヤ  
ニヤ





オツパイもすげー  
でかいし、あんな  
いやらしい身体してちや  
太歳星君様に勝てる訳  
ないよな(笑)

あ、ああつ  
あああつ

やっ  
ああつ

あああつ

ひひひ、鍛えてるって  
割にはでっかいケツ  
してるな美鈴ちゃん♪

み、皆っ  
ああつ





もうたまらねえよ、  
見るだけじゃなくて  
実際にあの身体を  
犯しつくしてやりてえ！

うわ、母乳を  
噴いたぜ！

おほおおおつ♡

しよ、正気に、  
も、戻って……っ♡

んおおつ♡  
おおつ♡

んおおつ♡

ガッガッ

ガッ

んおおつ♡

んおおつ♡

んおおつ♡

んおおつ♡

んおおつ♡

ガッガッ

んおおつ♡

くく、随分と  
人気じゃないか  
これは少々  
サービスして  
やらないとな?

あっ!?

おおおっ!

美鈴ちゃんの  
オマンコ丸見えだぜ!

い、嫌あつ!!!  
やめろおっ!!!

ひひ、ま、前に見たときより  
ピラピラがはみ出て  
エロい形になってるぜ!





くくく、そんなに尻を振りおつて焦らずともしつかりくれてやるわ!

ああああっ♥

ああーっ♥♥♥

うおおお!

M!!  
M!!  
M!!

M!!

M!!  
M!!  
M!!

M!!

M!!

ブツッ♥

ブツッ

ブツッ

ブツッ

ブツッ



嫌あ  
そんなこと  
言わないで  
おっおっ  
おっおっ

すげー、ピストン  
されるたびに  
母乳が噴水みたいに  
飛び出てるぜ

おっおっ

おんおっ

今まで見た生贖の中でも  
一番エロい身体  
してるな美鈴ちゃん

おっ  
おっ  
おっ  
おっ





その後はまだ  
囚われの身になり、  
再び徹底的に……

おおっ♡

んおおっ♡

もっ♡  
ダメえっ♡

ゆ、許し……っ♡  
てええっ♡

おおっ♡

ブツ  
ブツ  
ぐっ

ブツ

ブツ

ぐっ  
ぐっ  
ぐっ

ぐっ  
ぐっ









まあそんな所が  
気に入ったん  
じやがのう！

ひん  
お  
い  
つ  
つ

か、かき混ぜちやつ

おん  
お  
お  
お  
つ  
お  
お



そ、そこおっ  
ダメえっ

ああああっ

あ、ああっ  
あああっ

くくく、気絶するまで  
犯したら「まだ」  
解放してやるう

そして回復したら、  
またわしに立ち  
向かってくるが良い

あああああつ♡

わしはそんな健気な  
お前を犯し、辱めるのが  
大好きなのじゃ

いつまでも壊れずに  
立ち向かってくるのを  
期待しておるぞ、  
何と言つてもお前こそが  
幻想郷の「最後の防波堤」  
なのじゃからな……♪